

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 黒鯛の家 )

事業所番号	0673100087		
法人名	株式会社ケアサービスつきみ		
事業所名	グループホームねずがせき		
所在地	鶴岡市鼠ヶ関字横路9-3		
自己評価作成日	平成22年 5月 28日	開設年月日	平成16年 8月 15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事は季節のものを取り入れ手作り提供し、材料は新鮮なものを担当職員が購入し、小さなものは職員で利用者の方と近くのスーパーにて購入している。利用者の持っている力を出せるように役割を考えながら暮らしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)  
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形県山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成 22 年 7 月 13 日	評価結果決定日	平成 22 年 8 月 13 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「寄り添い、思いやり、共に歩む」を介護理念として掲げ平成16年開設した。事業所は日本海が一望出来る高台に位置し、利用者は四季折々の景色を楽しみながら暮らしている。開設から6年目を迎え、地域との協力関係も構築されており、普段から地元の食材や、家庭菜園のアドバイスももらったり、事業所が主催する行事には地域の方も積極的に参加しており、双方向的な協力関係のもと、地域に密着した事業所として、日々サービスの提供に努めている。管理者や職員は向上心が強く、研修や外部評価を積極的に活用し、サービスの質の向上に努め、理念の実践に繋げている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全員で介護理念を作り、職員の会議等で唱和している。 介護理念に『共に歩む』があり、地域と一緒にいる為にお互いに祭りへの参加、天気の良い日の散歩での挨拶等をお互いに、公道の清掃を行っている。	理念は玄関等、人目の付きやすい所に掲示し、毎月開催する職員会議で話し合いをすることで、日々のサービス提供の際、理念の具体化を実現させている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	GHにテディサービスがあるため、ケアマネとの相談や民生委員からの情報を受け、他事業所とも声をかけている。 又、近所の方からは畑の植え方等を指導してもらっている。	例年開催している事業所の夏祭りには、地域から多くの方が参加し利用者と共に楽しんでいるが、今年は敷地内工事のため、安全に配慮し、地域の方々の参加を取り止めた。日頃地元の方からは、食材やタオル等の差し入れ、また家庭菜園のアドバイスを受ける等、地域の一員として交流が図られている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で話したりしている。 H20年、21年には『認知症を地域で支えよう』という事業にも参加している。 大きな行事の際に地域の方と交流する中で話し合っている。 (夏祭りは昨年は50名の地域の方の参加があり、その際に近所のこんな人がある、施設の利用はどうしたらいいか等相談があった。)			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告、入退所の報告、地域密着サービスとしての取組みを報告し意見を聞いている。 それを職員会議で話し合い、サービス向上に活かしている。	自治会長、民生委員、市職員、包括支援センターの担当者らが出席し、2ヶ月に1回開催されており、サービスの実施状況、外部評価について報告し、アドバイスをもらっている。会議の内容は事業所便りや職員会議等で周知し、サービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席を頂いている事 その都度市町村担当者と相談確認している。	運営推進会議以外でも、認定調査時等を利用し、連携を図っている。また、疑問が生じた際には、その都度電話で確認する等、市との密接な協力関係が構築されている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	何が拘束になるのか話し合いをし、周知徹底している。	職員研修等で身体拘束についての知識や利用者にも及ぼす弊害について、職員全員に周知、徹底している。しかし、事業所としての具体的な指針等については整備されていない。	身体拘束についての具体的な行為について正しく理解し、事業所としての方針を明確化する為に、具体的な指針を定める事を期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症を知る学びの時間を設けている。どんな行為が虐待にあたるのか周知徹底している。又、入浴時には身体に不自然な傷等がないか確認するように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	上記の通り学ぶ時間を作って施設内には手書きのポスターを掲示し勉強会をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解を得られる様に説明し、理解していただき契約又は解約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、利用者会を年1回設けている。 (主に利用者の場合食べ物が多い) 又、随時寄せられる意見については連絡ノートにて全職員が把握している。又契約時にも説明している。	家族会や利用者会、面会時等を利用し、積極的に意見を聞く機会を設けている。また、契約時には外部の苦情窓口を説明し、意見箱を設置する等、家族や利用者が事業所や職員に気兼ねなく意見出来る体制を整えている。出された意見は申し送りノート等を活用し、全職員が共有し、運営に反映させている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回会社役員も入れて職員会議を行っている。意見が出ればすぐに現場に降ろせるもの、時間がかかるものと精査し反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス作成に取り組んでいる。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部では研修会を開催しており、外部の研修にも参加させている。	研修計画を策定し、毎月の内部研修に加え、介護技術に応じて外部の研修にも参加している。また、職員を段階的に評価するキャリアパスの作成にも取り組んでいる。新任の職員にはベテランの職員が付いて働きながらトレーニングする仕組みも整えている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	連絡協議会や研修時に知り合った人達と意見交換の時間を設けて、施設にない取り組みがあれば検討したり取り入れたりしている。	山形県グループホーム連絡協議会に所属し、職員の交換実習や研修会、会議を通じて他事業所との積極的な交流を図っている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が安心して安全であると認識できるまで緩やかなテンポで進めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来ることの範囲を話し、家族の協力も得たいことも話し、サービスを開始している。 又、本人と家族の違いを理解し、不安軽減に努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要な支援を話し合いし対応している。 病院や他施設への紹介も行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本に寄り添うことの大事さを念頭に置く様になっている。 料理作りの参加、洗濯物の取り入れ、たたむ等をしてもらっている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	レクの参加や情報を面会時及び広報という形で知らせている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	グループホーム入所で途切れてしまうが、面会時の訪問時は歓迎している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レク時のグループを組むときや、食事時のテーブルの席を関わり合いが出来る様にしている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡にて契約が終了することが多いので家族よりの連絡があれば丁寧に相談に乗っている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理念通り、まず寄り添ってみることを基本にしている。	理念にも掲げられている日々の寄り添いの中で利用者の意向を傾聴し、センター方式のアセスメントを活用しながら、利用者一人ひとりの生活歴、普段の表情や仕草等から希望、意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式に記入して生い立ちの把握に努めている。 又、家族よりも情報の把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアマネージャー担当職員がアセスメントを行い、申し送り時や職員会議を通して情報を共有している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要な関係者と話し合い、現状に即した計画を作成している。	利用者の状況に応じ、毎月又は3ヶ月に1回モニタリングを行い、家族の要望や担当職員の支援表を参考にしながら現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月1回のケアカンファレンスで見直しをしているし、個人記録に1日の様子を記入し朝夕の申し送り時に活用し情報を共有している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に合わせ柔軟なサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	配食、掃除、受診介助しながら地域の人の見守りを得て本人本位で暮らせるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診、又その時その時の様子を把握し適切な医療が受けられるように支援している。	以前からのかかりつけ医の継続か協力病院かは、利用者や家族の状況に応じて選択できる。また、通院支援を行った際は、電話で家族に報告している。尚、医療機関と連携し、利用者の状態に応じて往診も行なっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常や不安があった時はすぐに看護職員に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は定期的に面会に行き、医療者と情報交換し、相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	今年になってから荘内病院の先生を入れての研修会を計画している。 また、8月より先生の筆で終末期のあり方を施設の広報に執筆してもらう予定。	現在、重度の利用者や終末期を迎えた利用者はいないが、今後はそのような場面も想定され、管理者も重要性を認識しており、医師を交えての研修会や終末期について広報への執筆を依頼する等、事業所として方針の策定や共有に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	連絡方法、指示通りの初期対応は毎日上申し(21:30)で実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回防災訓練を実施している。 春、秋は町内会と一緒にやっている。 緊急時、防災無線を使用し住民への協力を依頼している。	年3回、地域や消防署が参加し、夜間を想定した実践的な訓練も行き、避難し易いよう玄関の戸を引き戸にする等、日々の災害対策にも活かしている。また、日頃から地域の企業に声掛けし、有事の際、従業員から協力を得るなど地域との協力体制も構築されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特にトイレ誘導には誇りを損ねないような対応をしている。	ミーティング等折に触れ職員同士が声掛けについて話し合い、特にトイレ誘導の際には誇りやプライバシーを損ねないように注意している。個人が特定できる書類については作成や保管を外部者が自由に行き来出来ない所で行う等、プライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望に寄り添いながら自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時は化粧をし、服装もお洒落着に更衣し出かける様にしている。 出張理容を利用し散髪を行っており、又個人で美容室へ行く方も居る。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材切り、盛り付け、皿洗い、食器洗いを利用者と職員が一緒に行っている。 ワラビなどは一緒に取りに行き、食卓に出ることもある。	管理者及び職員は、「食」の重要性を認識し、利用者の得意な事や苦手な事に配慮しながら、職員、利用者が一緒に準備や食事、片付けを行っている。おかしは地元の魚や畑で収穫した野菜等、利用者の馴染みの食材を多く取り入れている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	刻み食やとろみ対応で利用者の状態に合わせて提供している。 1日の水分量1500ccを目安にし支援している。が平均1200ccとなっている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを本人の力に応じ、介助したり見守りしたりして支援している。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツの利用量を減らす為に、パターンを調べそれにあつたオムツを使用し減らしていけるよう支援している。	排泄チェック表を活用して排泄のリズムやタイミング等を把握し、出来るだけ自立して排泄できるように支援している。また、便秘気味の利用者には、腹部マッサージや運動を取り入れ出来るだけ下剤を使わず、オリゴ糖などで排便ができるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の軽運動、腹筋体操 リンゴ酢、オリゴ糖の飲用 決められた時間のトイレ誘導と、便秘予防に取り組んでいる。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日は月、水、金であるが、本人の状態により対応している。 夜の入浴もしている。 入浴嫌いの方には声かけを工夫している。	原則週3回の入浴日を決めているが、本人の希望を優先し、状況に応じて柔軟に対応している。また、利用者の状態に応じ機械浴にも対応している。入浴を拒む利用者には、声掛けを工夫し、入浴の支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冬は湯たんぽ、電気毛布 春～秋は布団干しを行い、冬布団から夏布団への変更と、こまめに対応している。			



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	セット時予約、服薬の確認を行っている。又、薬名と用法、そして症状を動静録に記入し情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	元魚屋さんには昼食分の魚を50切もさばいてもらったりして達成感を味わってもらったり、生活の一部として自主的に参加し役割を見出せる様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さくらんぼ狩り</li> <li>・花見</li> <li>・梅狩り(酒田)</li> <li>・観劇</li> <li>・傘福見学</li> <li>・チューリップと飛行場見学</li> </ul> と、色々な場所への外出の機会を設けている。	さくらんぼ狩りや花見、わらび採り等、季節に応じた外出支援を利用者の希望や状態を勘案しながら計画し、実行している。また、広い敷地内を利用し、畑の種まきや収穫、日常の散歩等、戸外をゆっくりと楽しむ事が出来る。尚、外出の難しい利用者でも自然を感じてもらえるように、現在、テラスの取り付けを行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人や家族の希望に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ダイヤルを回す、お礼の葉書を出す、利用者の希望に添って支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの窓ガラスには季節の絵を貼り、各居室には暖簾をつけ、光の調節の出来る電気器具、冷暖房機の設置があり気持ちよく過ごせる工夫をしている。	リビングには、利用者の作品や七夕の飾りつけ、外出した時の写真等が飾られ季節感を演出している。また、日本海を一望出来る大きな窓からは自然光が明るく差し込み、台所からは調理の音や匂いを感じることができ、家庭的な雰囲気の中で暮らしている。さらに、冷暖房機器やカーテン、簾等を用いて温度や光を調節することで、利用者が快適に暮らせる工夫もなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	長椅子を設置し独りになったり一緒に昼寝したりし各々が過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望があれば冷蔵庫等も設置し人形や亡夫の写真も飾っている。	居室には利用者の使い慣れたタンスや家族の写真等を持ち込んでもらうことにより、利用者に安心感をあたえている。また、プライバシーに配慮するためドアに簾をかける等、居心地の良い部屋になるように心がけている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物全体がバリアフリーで新聞を読んだり掃除や下膳等自分が出来る事を見守り中していただきアセスメントやモニタリングをすることでその人にあった支援が出来るように努めている。		